

JSPE Magazine Quarterly

The Japan Society of Professional Engineers

トップページ

土屋会長年頭の挨拶



JSPE 会員の皆様新年明けましておめでとうございます。

2008 年後半のリーマンショックに続く経済危機から 1 年強の時間が経過して、今後景気はいつ頃から本格的に回復するのだろうかということが多くの人々の関心事ではないかと思われま

す。欧米や日本を含む先進国では消費需要は、まだまだ緩慢なままですし、何より雇用の回復の兆しが全く見えない状況です。これに対して、インドや中国、あるいはブラジルといった新興経済圏は、底堅い内需に支えられて、100 年に一度と言われ

る経済危機を乗り越えて躍進中です。先進国では、多かれ少なかれ各国が、この不況を脱出するために金融緩和政策を取っていますが、そこで生まれた低金利のドル資金が、新興国の資源や土地などへの投機に向かっている兆候が見られます。正に、先進国のバブル解消のための政策が、新興国に新たなバブルを生み出そうとしているかのように見えます。資本主義経済の宿命なのかもしれませんが、つくづく、本当に人の営みには反省がないと感じざるを得ません。

このような中、長く続いた閉塞感に終止符を打つべく、我が国では政権交代が実現しました。事業仕分などに見られるように、これまで閉じた世界で決められてきた政治判断が、庶民に対して公開されるようになったことは、非常に大きな進歩であると思います。しかしながら、日本としての国家将来ビジョンというのは描けていないために、様々具体的な決断をする際には、迷いが生まれてきてしまっているようです。長く続いた我が国の財政赤字を埋めてくれてきたのは、これまでは貿易収支でしたが、円高により輸出は伸び悩み状態、日本を支える製造業は新興国への比重を高めています。かろうじて膨大な財政赤字をバランスさせているのは、我が国の個人や企業による膨大な貯蓄ですが、これも高齢化やライフスタイルの変化で、将来は確実の減少傾向です。

シンガポールで上級国家公務員をしている友人が 10 年前までは、よく日本に出張してきたのですが、最近、全く日本に出張してきません。科学技術政策を担当する彼の出張先は、イスラエル、インド、中国、アメリカ等多岐に渡り、毎月世界を飛び回って、新しい投資先や提携先を探し回っています。こんなところにも、明らかに日本の存在感の低下を感じさせます。また、この 10 年間で、私の知る海外の友人達を見ただけでも、彼らの生活空間は大きく変化しています。先日、日本で成功を収めたある中国人ビジネスマンから聞いた中国

トップページ ;	P1
海外からの年賀状 ;	P3
CPD audit ;	P5
PE 登録更新を忘れた時の体験記 ;	P7
州登録関連記事 ;	P8
オレゴン州試験資格認定委員会情報 ;	P9
州登録体験記 ;	P11
PE/FE 試験 ;	P18
Ethics ;	P19
会員からの投稿 ;	P20
海外からの連絡 ;	P23
理事会ニュース ;	P24
Coming event ;	P30
新入会員紹介 ;	P30

の古い言葉があります。「十年河東、十年河西」河の東側に住む住民と西側に住む十年毎にその繁栄が入れ替わるという意味だそうです。どんな素晴らしい価値観も十年もたてば別の価値観に置き換わることだそうです。逆に、十年経っても何も変わらない発想や構造があれば、陳腐化した発想と構造と考えるべきだということです。

新年早々から、我が国に関して、あまり芳しくない話題をご披露して誠に申し訳ありませんでした。イソップの寓話「アリとキリギリス」を借りれば、私達日本人は、これまで「自らに誇りを持ったアリ」だったのではないかと思います。しかしその誇りがどうも維持できなくなってきているような気がします。年末からNHKで放映中の「坂の上の雲」を見てみると、なぜか私達は清々しいものを感じます。それは、世界から遅れて近代化をスタートした日本にあって、明治の日本人達が、使命感を持って、背筋を伸ばし、目線を高く自分が進むべき道を定めて頑張っている姿のせいではないでしょうか。あの物語に登場する軍人や政治家は、現代の日本人よりも遥かに語学力も国際センスもあったのではないのでしょうか。しかも、日本人固有の文化や精神というものが立派に体現しています。新渡戸稲造や岡倉天心といった人々の国際情報発信力、表現力というのも、素晴らしいと思います。

さて2010年、J S P Eは設立10周年を迎えます。日本、そして日本人にとっては、非常に深刻な状況が続きますが、グローバルな視点をもったエンジニアのあり方を考える場としての当会にとっては、まさに打ってつけの時代背景にあるのではないかと考える次第です。今年も会員の皆様からのご支援をいただき、共に議論を深めていきたいと思っております。

2010年 元旦

会長 土屋 雅彦

海外からの年賀状



Merry Christmas & A Happy New Year!

2009年12月

JSPE メンバーの皆様

南半球のオーストラリアから夏のクリスマスカードを送ります。
昨年5月にパースに引越して一年半が経ち、2度目の暑いクリスマスです。
ホワイトクリスマスならぬ、街のクリスマス・ツリーの飾りに夏の太陽が反射してキラキラの風情も全くないクリスマスですが、当地ではこれがクリスマスの風情なのでしょう。

西豪州の北部の天然ガス資源開発や、鉄鉱石、ウラン開発で、リーマンショックの影響を最も受けなかった国の一つがオーストラリアで、所謂バブルの真っ最中では。資源関連プロジェクトでパースを訪問される方も多いと思いますが、おいでの際は是非声を掛けて下さい。

夏のクリスマスの風景と併せて、アパートの部屋からの昼、夕方、夜の風景をご紹介します。
皆様どうぞ良いお年をお迎えください。

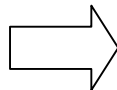
田崎 稔@Perth



A Happy New Year

プラントエンジニアリング業務がほぼ完了し、今年はこのプラントのスタートアップで忙しくなる予定です。1996年のAtlanta オリンピックと90%が同じコースというAtlanta Marathonを当地での走り納めにして、年末にGeorgia州からプラント建設地のWest Virginia州(別名 The Mountain State、カントリー・ロードの州です。)に引越しました。お近くにお越しの際はぜひご連絡ください。

PE-0174
宮原 道寿



明けましておめでとうございます
中東のバーレンに3ヶ月の予定でいます。
中東のお客さん回りをして、色々商売のネタを見つけています。

PE-0081

神野 秀基



光り輝く島と言われているスリランカより、新年のご挨拶をさせていただきます。スリランカの豊かな大自然の中で、プロジェクトの成功へ向かって奮闘中です。本年もよろしくお願ひいたします。

PE-0156

汐崎 亮介



CPD audit

Continuing Professional Development(CPD) Audit について

PE-0111 引田一史

Continuing Professional Development(CPD) Audit について、皆様の参考になればと思い、私の体験談をまとめました。

PE ライセンス更新時の CPD の扱いは州により異なっており、CPD を要求する州と要求しない州があります。私の登録しているオレゴン州では2年毎のPEライセンス更新において、30 Professional Development Hour (PDH) の継続教育を実施したという条件の基に更新が認められます。

そのため、この30 PDH の自己学習を実施したことをPEライセンス更新時に自己申告することになっています。また、オレゴン州では、このPDHが本当に実施されているかを確認するために、毎回無作為に抽選した人に対し Audit を行っています。

私は、PE ライセンスの有効期限が2007年6月30日でしたので、6月中に Oregon State Board of Examiners for Engineering and Land Surveying (OSBEELS)のプロセスに従いPEライセンスの更新を実施しました。更新前の年はJSPE主催のCPDセミナー等に積極的に参加していたので、特にPDHも確認せずに更新手続きをしてしまいました。1ヵ月後ぐらいにPEライセンスの更新が完了したという内容の手紙と共に新たなポケットカードが送られ、無事に更新手続きが完了したものと安心していました。

ところが、約6ヵ月後の2007年12月20日頃にOSBEELSより手紙(添付-1)が送られてきました。その手紙には、幸運にもCPD Auditに当選したので、必要書類を2008年1月18日までにOSBEELSに送れという内容のものでした。

手紙を受け取ってからは、まだ約1ヶ月の猶予がありましたが、私は出張中で実際に手紙を見たのは年末に自宅に戻った時でした。この時点では、CPDセミナーのCertificateがあるから大丈夫と高を括っていました。年が明けてAudit用書類の準備を開始し、オレゴンまでの配送時間を考えて約10日間で書類や記録を探し出しまとめる予定で作業を行いました。

まず、最初に手をつけたのが手紙に書いてある Oregon Administrative Rule (OAR)820-010-0635, 820-015-0026の内容を確認しました。

OAR 820-010-0635にて、どの項目が何時間のPDHに該当するかを確認しました。

また、OAR 820-015-0026には、Auditに不合格時の対応や行動が記載されていました。

今までに入手したPDHがどのType of activityに該当するかのまとめと平行して、取得したPDHを時系列順に整理し、PDHとして認められるものの選別を行いました。この作業の途中で、本来あるはずのCertificateが見つからない!という問題(普段の整理が悪い!)が発覚しました。

このAuditは2005年7月1日から2007年6月30日までの2年間に取得したPDHが対象であるため、この期間中に取得したPDHをまとめると、JSPEで取得したPDHはたったの5PDHしか見つかりませんでした。

図-1 Type of activity(2007年時)

これでは、虚偽の申告でAuditに不合格になってしまいます。

そのため、CPD セミナー以外で PDH として認められるものは何かを再度確認しました。PE 登録後に行った活動で、PDH として加算できるものは、

“Active participation in professional or technical societies”: 最大 6PDH、“Self study of relevant materials that significantly improve the registrant’s ability to work in the subject area”: 最大 6PDH

しかないことが分かりました。

これに加えて、社内のトレーニング実績、JSPE での部会活動や FE 試験時のプロクタ活動を合計しましたが、これでも 29PDH と 1PDH 不足しました。

そこで、何かもっと PDH として認められるものが無いかと OAR を読み返すと前回の更新時の PDH が最大 15PDH 繰り越せることが分かりました。

PE 登録をした 2004 年 1 月から 2005 年 6 月 30 日までの期間に取得した PDH を最高の 15PDH 加算することとし、合計 38PDH として何とか目標とする 30PDH を満足することができました。

これで規定の 30PDH は満足しましたが、OAR で規定されている内容を本当に満足しているのかという不安がありました。特に JSPE の部会活動や PE/FE 試験ボランティア活動が認められなければ、その時点で Audit は失格となってしまいますからです。

まとめた書類はコピーを取り、この PDH リスト(添付-2)の他に証明として Certificate と Certificate が無いものはトレーニング教材の表紙と目次を添付して、2008 年の 1 月 5 日に OSBEELS に書類を発送しました。

その後、OSBEELS から Audit の結果連絡が来るかと待っていましたが、結局は 2 年間何の連絡も無く、2009 年の更新の連絡が来たので Audit はパスしたのだと、その時になって分かりました。

最後に、私はドタバタと CPD 記録を掻き集め何とか事なきを得ましたが、PE の皆様は CPD Audit の手紙がいつ届いても良いように、JSPE の CPD セミナーに積極的に参加したり、PE/FE 試験にボランティア参加するなど、日頃より PDH を計画的に取得されることをお勧めいたします。

なお、この時の反省としてセミナーに参加した際には、その記録をリストにまとめると共に Certificate をファイルするようにしました。

また、今年行った更新では、この反省を活かし PDH を確認後に更新のサインを行いました。今回はいつ Audit の手紙が来ても問題のないよう準備が整っています。

以上

以下にこの体験談をまとめている際に参考にした CPD 関係のリンクを添付します。

http://www.osbeels.org/docs/CPD_questions.pdf

<http://www.oregon.gov/OSBEELS/docs/Forms/CPDOrganizationalForm.pdf>

http://arcweb.sos.state.or.us/rules/OARS_800/OAR_820/820_010.html

<http://www.pdhcenter.com/pdh-table.htm>

PE 登録更新を忘れた時の体験記

出かけるときは忘れずに
オレゴン州 PE
匿名希望

前回、2007 年の PE ライセンス更新の後、ひょんなことから引越しをし、そのまま、外国に出かけてしまったため、2009 年度の更新をすっかり忘れておりました。

先般、同僚のカナダ国籍 PE 氏が、カナダの PE にもアプライするに当たり、小生のライセンス番号をしらべていたら、ステータスが Delinquent になっているとあわてて連絡してくれました。(ステータスの確認は、Osbeels HP の Find a License からできます。)

さー、それからが大変。仕事も手につかず、食事ものを通らずの日々。なにせ、これだけの不況下、外国の資格だけが頼りと当てにしていたのに、、、、、、(汗)

まずは、必死で、HP を読み、どうやら、更新書類をダウンロードして送れば良さそうだとわかりました。クレジットカードの番号を盗まれる危険も顧みず、e-mail で、Registration に書類を送付！！。しかし、1 週間待っても Delinquent のまま。件の PE 氏も推薦人がいなくては大変、と一緒に検討。どうも、滞納の罰金が必要なようだ気づきます。まずは、電話してみようと決意。早朝にいそいそと電話すると明るい対応で、「担当が違うよ」と。

気を取り直して、電話で教えてもらった Fee の担当者に、罰金 80 \$ を添えて再び送付！！。しかし待てど暮らせど、Delinquent の日々。

数日して、Fee 担当者に電話すると、罰金だけでなく、CPD の提出が必要なので、必要書類をメールすると。確かに、HP で閲覧したルール (820-010-0305、820-010-0520) には、そのようなことが書いてある。「オー神よ」私を許したまえ、サボっておりました。JSPE の講習会には、いつも参加していたけど、CPD を整理していませんでした。メールで届けられた書類も、実はダウンロードできる代物、あせっているときはこんなものかとかっかり。

早速、会社の机と、家の本棚をひっくり返してサーティフィケートを見つけ出し、日付順に整理。祈るような気持ちで合計すると、よかった、30 時間+滞納していた期間分の CPD 以上ある。早速、3 枚に及ぶ参加講義のリストを作り、担当者に送付。

翌々日電話すると、「書類は Perfect」とのこと。ほっとしながらも、CPD の Certificate の束を送らなくて良いかをしつこく確認。Audit に当たらなければ良いようで、とりあえずセーフ。PE 試験のプロクターの日も迫っていたので、ほっとして汗びっしょりになった。

10 日ほどすると、ライセンスカードが送られてきた。HP が更新されるには、その後 1 ヶ月くらいかかったけど、「必要があったら、私が証明する」と担当者が言ってくれた。感謝、感謝。皆様も、海外にお出かけの前に、ご自身のライセンスの更新をお忘れなく。もちろん、住所変更の連絡もね。

州登録関連記事

各州PE法事情

PE registration rule, State by State



ワイオミング州 State of Wyoming



Dr. David Whitman, P.E.

Board of Registration for
Professional Engineers And
Professional Land Surveyors

David Whitman, P.E.
President

PE登録されるということは、たとえ市民権がなくともその州の一員となることである。
連載第5回は、PE制度発祥の地ワイオミング州(WY)です。

1. 今年のNCEES会長はワイオミング州ボード会長が兼務

1907年に全米で最初にPE制度を生んだ州として有名なワイオミング州ですが、今年はこの州のボード President である David Whitman, PE が NCEES (全米 PE/LS 試験協議会) の President としての任にも就かれています。NCEES ホームページによれば Whitman 会長はワイオミング大学の電気工学教授。石油工学、鉱山学にも通じているとあります。

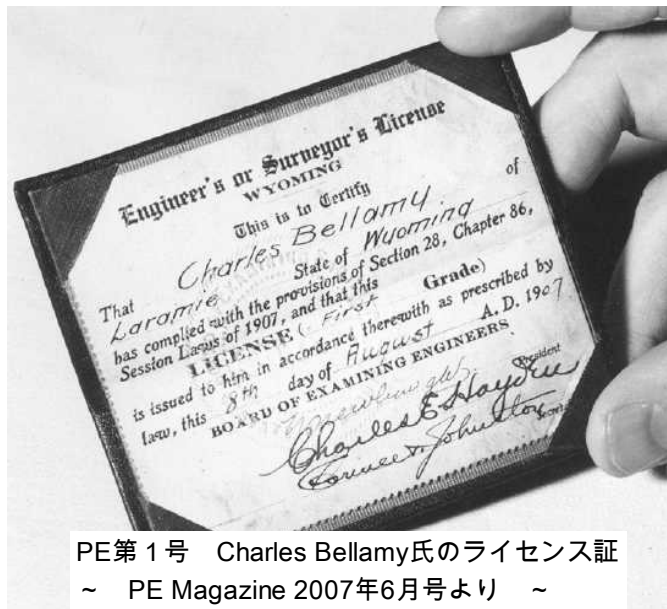
2. 人口比 PE 数は全米随一?

ワイオミング州の人口は約 50 万人と非常に少ないですが、PE 登録者数は 5000 人超ということなので、PE 数/人口比 = 1/100 となります。この値は例えばオレゴン州 14000 人/500 万人 = 1/350 カリフォルニア州 80000 人/3000 万人 = 1/375 等と比べると大きいといえます。人口は少ないものの大きな炭坑や油田を抱えていることが多くのエンジニアを全米から集めているのかもしれませんが。

またイエローストーン国立公園など自然観光資源に恵まれたワイオミング州は年間観光客数が 600 万人ということです。(PE Magazine 2007/6 号 および Wikipedia による)

3. 日本人のワイオミング州 PE 登録は困難か

(<http://engineersandsurveyors.state.wy.us/documents/RulesandRegulations.pdf>) ワイオミング州の PE 法・規則を通読してみました。この結果同州の PE 登録には次のような特徴があることが読み取れました。



PE 第 1 号 Charles Bellamy 氏のライセンス証
~ PE Magazine 2007年6月号より ~

- ・ PE 登録には米国民あるいは登録された移民であることが必要 lawful presence の提示を求められるので日本居住のまま登録することは困難か(Chap4 Section1(a) ())
- ・ リファレンスは3人の監督 PE を得ることが必要(Chap4 Section1(a) ())
- ・ 受験登録の場合は大学卒業後4年の業務経験で OK コミティ登録の場合は FE 取得後4年の業務経験が必要 なお ABET 適合大学卒で20年の業務経験があれば要請すれば FE 受験を免除される (Section7(c))
- ・ PE スタンプはカウボーイのデザイン (Chap5 Section2 (a))
- ・ 継続教育ユニットは CPC (Continuing Professional Competency) と呼ばれ2年間で30CPCが必要である (Chap9 Section5) ただし PE 登録後最初の2年間は CPC 免除である (Chap9 Section9 (a))
- ・ 改正州法案では 試験を受けた以外の分野についても PE は十分な経験があれば実務を行って良い との規定が提案されている (Chap4 Section5 (c)) これは例えば Mechanical の PE 試験を受けて PE になった人が実務の中で Electrical にも十分な知識と経験を積んだとすれば Electrical の PE 試験を受けなくとも Electrical engineering の業務を請け負って良いということである。鉱山や炭坑などの現場では専門分野をまたいだエンジニアリング業務が多いという実状に配慮した規定なのであろうか。
- ・ 改正州法案では ABET 適合審査として NCEES-CE がやはり盛り込まれつつある (Chap4 Section6 (b))

4 . ABET 不適合大学の温床だった側面も

Wikipedia のワイオミング州解説を読んでいくと、かつてワイオミング州は diploma mill (学歴乱造校) の温床だったこともあり、その対策法が2006年に成立したということです。最近各州での PE 登録の際、卒業大学の ABET 適合が厳格に評価されるようになってきていますが、その背景にはこうした diploma mill の存在があります。ABET 適合が必要以上に厳格適用されないようにするためにも、NCEES 会長を輩出したワイオミング州の活動をわれわれ日本人 PE としても応援していきたいものです。

次回は NCEES 所在地、サウスカロライナ州を取り上げる予定です。

記 2009/12/24
理事 川村武也

オレゴン州試験資格認定委員会情報

始めに例によって、OSBEELS (オレゴン州試験ボード) のウェブサイトに掲載されている、Examinations & Qualifications Committee (試験資格審査委員会) の議題・議事録から気になるトピックをお知らせします。今回は10月9日分の議事録となります。

- ・ イラクのエンジニア Mr. Luay Esho は、彼の教育及び職歴が所定のオレゴン管理規則 (OAR) を満たさないとの委員会の決定を、再検討するよう要請した。現在のイラクの情勢においては、このような情報を学校や職場から収集することが大変困難であるとのこと。彼は他の27州において登録されており、また彼の外国での学位も充分であると主張している。委員会は11月10日のボード会議へこの事項を申し送りする決定をした。

ボード会議の議事録ができておりませんので、本件の顛末が分かりませんが、イラクのエンジニアが米国の PE を取得しているという事実から、やはり PE はグローバル・スタンダードであるという思いを新たにし、またエンジニアのキャリアも国際情勢とは無縁ではられないのだ、ということを感じました。

- ・ Chemeketa Community College の「Civil Technology Program」の講師から、オレゴン管理規則の

「Technical Work」に該当することが分かるよう、「Civil Engineering Technology」とプログラム名を改めようと思うが、という提案のメールがあった。委員会は、OSBEELS にプログラム名に関する権限はないが、その変更自体は管理規則に合致すると決定し、そのように同講師に通達する。

これは PEN/FE が Reference を作成する場合にも留意すべきことと思います。自分の経歴、タイトルなどをどのように表現するかによって、審査者の印象も変わってきます。勿論詐称は厳禁ですが、そうならない範囲で、自分を上手にプレゼンする心構え、能力も大切です。

・ 委員会では、外国人受験者への新規免許下付申請、及び外国人受験者からの試験申請受付について、NCEES と様々な討議を行っている。

これについては、現在 JSPE/JPEC でも具体的な内容についての確認を行っていますので、明確になり次第、会員各位に告知したいと思います。

・ NCEES のディレクターボードにおいて、ソフトウェアエンジニアのための新しい PE 試験を策定することが承認された。実施までには 2 年半ないしは 3 年くらいかかる見通し。

・ 他州 PE のオレゴン州での登録について、今回はずっと以前に他州で登録された PE についての報告が目立った。

ü California で 1972 年に合格した PE è 当時の記録が充分残っていなかったが、結局は OK となった

ü Texas で 1983 年に合格した PLS è 当時の記録が残っており OK となった

ü Alaska で 1962 年に Electrical Engineer のライセンスを取得したエンジニア è Alaska 州は 1967 年まで NCEES の試験を実施していなかったが、提示された情報を検討した結果 OK となった

さて、今回はオレゴンボードとは特に関係ないのですが、この 2 週間で 2 回、ソウルへ出張する機会がありましたので、少しだけ雑感をご紹介します。

皆様ご承知の通りとは思いますが、韓国は世界のマーケットニーズに合ったデジタル機器・部品を、いち早く開発・販売することにより存在感を高めています。今回の訪韓目的の一つは、そういった製品を対象としている企業との打合せだったのですが、そのリードタイムに対する要求の厳しさは、日本企業の比ではないと感じました。特定の企業のみとのつきあいを避け、常に同業を競わせながら最大のアウトプットを引き出す手法は、ベンダーにとってはつきあいづらいかもしれませんが、後発メーカーでありながらあつという間に日本企業を引き離し、世界に冠たる地位を築いているわけですから学ぶところは大きいでしょう。

デジタル機器の普及は日本以上であるように見えました。車を運転している人は、Bluetooth を使ったハンドオフの携帯電話システムを普通に使いこなしていましたし、Incheon 空港のワイヤレス LAN を使ったインターネット接続コーナーは大盛況でした。その一方で日本以上に、メガネをかけた子どもが多いような... デジタル機器の普及、激しい受験戦争など理由は複数あるのですが、急速な発展に負の側面もあるのかな、と思わずにはおれませんでした。

街は日本人観光客が多いせいか、日本人が旅行に訪れても不便の無いような工夫がいろいろ見られます。例えば地下鉄ですが、写真 に示すように切符販売機は韓・英・日・中の各言語の選択が可能ですし、各駅には何号線の何駅か分かるような固有の番号が付けられておりました (大阪や京都の地下鉄にもついていますが)。日本がアジア同胞の旅行者を迎える体勢はこれほどになっているか、と考えさせられました。

数時間ほど、観光する時間に恵まれましたので、写真 に示す景福宮（李氏朝鮮の王宮）を見物したり全身マッサージを受けたりと、大変有意義に過ごしたことを付記しておきます。



写真

PE0145 鈴木 央



写真

合格体験記

PE 登録体験記 1

- 1.氏名：岡田 啓介
- 2.会員番号：PE-0173
- 3.登録州：ワシントン州
- 4.専門分野：Mechanical



5.初めに

私は 2009 年 8 月に “Washington state department of licensing” (以下 DOL)への PE の登録が完了しました。

まず、PE 試験へのチャレンジの理由ですが、私の場合は業務で RPE が必要であるため、試験合格、及び州への登録が必須でした。そのため、弊社の PE 及び上司の協力を得ることが出来、手探りではありましたが、上司と相談しながら申請を進めることができました。

私がワシントン州に申請を決めた理由としましては、まず、JPEC のホームページでワシントン州が正式に日本人の登録を表明していたことを知ったからでした。その後、登録の要領を調べるため、申請書類についてオレゴン州とワシントン州に同時に問い合わせをしたところ、オレゴン州からはまったく回答がなく、ワシントン州からは素早い回答があり、そのためワシントン州への登録を決めました。

また同時期になりますが、手続きを進めるためのヒントが得られるかもと思い、JSPE 主催の合格祝賀会に参

加し、正式に入会を決めました。

6. 登録までの経緯

私の、PE 登録までの経緯は次の通りです。

2007年10月	PE 試験受験、その後合格
2008年3月	JSPE の合格祝賀会に参加。
2008年4月	DOL に問い合わせ。
2008年5月	オレゴン州に問い合わせるが、結局未回答。その後約半年、ABET 適合の手続きをどうしたらよいかで悩む。
2008年12月	とりあえず書類作成開始。
2009年1月	JSPE の記事で Washington 州登録の体験談を読む。そこで私の業務経験が8年以上あるため ABET 適合が不要であることを知る。
2009年2月 ~4月	上司とともに書類と格闘。何度かの書き直し後、RPE より書類内容を OK していただき、提出準備を進める。
2009年5月	書類提出。国際郵便為替を購入し、Oregon 州に FE の証明(\$15)、NCEES に PE 試験の合格証明を送付してもらうよう依頼。
2009年6月	Low & Ethics が届く。急ぎインターネットから Law and Ethics をダウンロードし、回答。
2009年7月	登録完了の旨の連絡有り。
2009年8月	正式な証明書が届く。

7. 申請書類について

(1) Application by comity

申請書類は DOL のホームページよりダウンロードしました。まず、SSN については、日本での PE 試験と同様、年金番号で良いことを DOL に E-mail で確認しました。

申請書類で一番苦労したのは、皆さんと同様、Work Experience の欄でした。質問の意味を理解するだけでも多くの時間を費やし、一時は申請をあきらめそうになりましたが、上司に相談、共に申請書類と格闘し、何度か書き直しをした後、弊社の PE に OK をもらい提出しました。この Work Experience については PE から、「DOL はこれまでの業務経験を知りたがっているのだから、それぞれの質問に対し、具体的に自分の業務経験を当てはめて書きなさい。」とアドバイスをいただきました。

最後申請時に知り合いの PE の方 2 名を紹介していただき、書類を完成させることが出来ました。

(2) ABET 適合

当初、ABET 適合について問い合わせたところ、Web サイトに記載のところでの証明しか受け付けないとの回答があり、まずは Center for Professional Engineering Education Services での証明を考えておりました。しかし、実際の手続きをどうしてよいか分からないまま半年を過ごしてしまいました。その後 2009 年 1 月頃、以前 DOL 問い合わせ時の回答で、大学の単位を業務経験に含める場合にのみ ABET 適合が必要と書かれてあったことに気づきました。幸いにも私は PE の元での業務経験が 8 年以上有りましたので、ここは問題なくクリアとなりました。

(3) 費用

申請費用については、郵便局の国際郵便為替を利用しました。これについても、支払い方法が問題ないことを事前に DOL に確認いたしました。

また、私の場合、FE 資格がオレゴン州であったため、申請書類 9 ページにアドレス、送り先を記載しオレゴ

ン州に送付しました。その後、証明には\$15が必要との連絡があり、クレジットカードで支払いを済ませました。

6. 登録についてのアドバイス

これからワシントン州へ登録をする方へのアドバイスとしては、細かいことでも E-mail で問い合わせればすぐ返事が返ってくると思いますので、不明点はすぐ問い合わせることをお勧めします。その他については、これまで多くの方が登録体験記を寄せられておりますので、それを参考に進めれば、書類は完成すると思います。Low & Ethicについても、必要な法規関係はインターネットでダウンロード出来るので、問題集を見ながら集中して読めば、回答出来ると思います。

7. 所感

6月にDOLから書類が無事受理された旨のレターが届き一安心しました。同時に送られてきたLow & Ethicsを1週間程度で回答しました。送付後、1ヶ月程度で合格の連絡があり、その後、正式な証明書も送られてきましたが、これまでの経緯を思うと思わず涙が出そうでした。私の場合は、日本で再開された最初のPE試験受験で合格したにもかかわらず、手続きに手間取り、登録には最終的に1年半ほどかかってしまいました。また、住まいが熊本であるため、JSPEの集まり等にも参加することは出来ませんでした。JSPEマガジンでの諸先輩方の体験記がとても参考になりました。また幸運にも、私自身が入社以来、PEのSuperviseのもとで8年以上業務をしてきたこと、また、業務上資格が必要なため上司の協力を得られたことから、なんとか登録完了し、正式にPEとなることが出来ました。

最後になりましたが、登録のためにアドバイスをいただきました多くの先輩方には改めてお礼申し上げます。協力いただいた上司、また試験勉強時、そして何度も登録をあきらめそうになった際、はげましてくれた妻に感謝したいと思います。ありがとうございました。

以上

PE 登録体験記 2

JSPE 会員番号： PE0174

氏名：宮原 道寿 (Michihisa Miyahara)

登録州：North Carolina

Discipline : Chemical



2009 Silver Comet Half Marathon,
Atlanta, GA にて

【はじめに】

PE0174 宮原と申します。JSPEには2004年からJoinさせてもらっていたのですが、会員の皆様と直接お会いする機会がなかなか作れないまま今日に至ってしまいました。さらに昨年からは再度の米国生活が始まってしまったため、ますます、直接お会いする機会をつくるのが難しい状況になってしまったのですが、この紙面をお借りして改めてご挨拶させていただきます。

私の場合は、Engineering Educationが認められない(無い)状況でPE登録しました。このようなケースは若干特殊かもしれませんが、以下の私の登録体験記の中に少しでも皆様のお役に立つ情報が含まれているようならば幸いです。

【PE 登録までの History】

1991～1994 年： 大学卒業後入社した化学会社で米国での化学プラントの建設プロジェクトに関わることになり、このときに米国の PE 制度を知りました。このプロジェクトで、後の PE 登録でお世話になった T. Provost 氏と知り合いました。

1996 年： 技術駐在員として米国の関連会社に赴任し、この会社の増産工事のプロジェクトに関わることになりました。このときに PE を目指すきっかけを与えてくれて、また後の PE 登録でも非常にお世話になったもう一人の PE、T. Chambers 氏と知り合いました。

1998 年： Chambers 氏の勧めで NC 州に FE & PE 試験の申請をしました。このときは日本の大学の Education であってもある程度の業務経験年数があるので最悪でも FE 試験までは受けられるものと甘く考えていました。

当時の NC Board の指定審査機関 (ECEI? 当時の審査機関の名前を忘れてしまいましたが) に Education の Evaluation を申請したところ、工学部ではないので審査が出来ない旨のレターを受領 (門前払い)。

1999 年： 仕方が無いので、とにかく申請書を出してみると、案の定、Education の証明を求められました。外国 (日本) の大学卒であること、Board の指定審査機関にはすでに Evaluation をお願いしたが工学部では無いために審査すらしてもらえなかった旨を説明しましたが、大学教育はもちろん、高校教育についても認定出来ないため申請は受けられないとのつれない連絡でした。Chambers 氏にこの状況を話したところ、この門前払いのような対応に怒り、Board に推薦の letter を書いてくれた結果、Hearing を受けられることになりました。この Hearing の結果、経験年数のみでも FE 試験については受験できることになり、さらにあと 4 年間の適正な業務経験 (米国外の場合は PE の監督下で実施される業務) を積みば PE 試験の受験も可能との Letter をもらうことができました。10 月に NC 州にて FE 試験を受験して、結果、無事合格しました。が、この合格結果の連絡をもらう前に日本に帰国することになってしまいました。

2002～2006 年： 海外業務からも完全に離れてしまい、なかなか適正な業務経験が積めない状態が続きました。この間に JSPE の存在を知って入会 (2004 年) しました。入会后、他州での PE 試験の受験も考えましたが、申請に必要な工学教育の証明を得ることがなかなか難しいと判断して断念しました。この間に、技術士、および、APEC Engineer の受験と登録を行ないました。

2007 年： 再び米国でのプロジェクトに関与する機会を得ました。

2008 年：

4 月 - 丁度、この時期に日本でも PE 試験が受けられるようになったことを知り、一步でも前進しようと日本で PE 試験受験して合格しました。(今考えれば、もう少し待っていればアメリカでも受験できたのですが、このときは米国にまた赴任することになるうとは思っていませんでした。また、PE の試験結果に有効期限があることを知らずに受験してしまい、合格しておけばいつでも PE 登録が出来るつもりでいたので、合格してから一定期間内に登録しないと結果が無効になることを知ってから少し焦りました。)

8 月 - 米国に赴任 (正確には 2009 年 4 月までは長期出張) し、米国のエンジニアリング会社にオーナー側の技術者の立場で駐在することになりました。このタイミングで NC 州に PE の申請を行いました。

12 月 - 申請書受理の連絡が無いため、1 回目の問合せを行ないました。Education の証明書類が不備だと言われたため、昔の NC Board からの Letter を送付して説明しました。その後、申請手続き開始のはがきを受領しました。

2009 年：

2 月 - 連絡が無いため、2 回目の問合せを行ないました。Education と NCEEC の証明書の 2 点が不備で Stop しているとのことだったので、もう一度これらの説明を行いました。

5 月 - 連絡が無いため、3 回目の問合せを実施しました。NCEES からの試験結果の証明書が無いため手続きが Stop しているとの返事でした。(最初、自分は Board が NCEES に連絡して記録を確認するものと思っていたので No Action でしたが、試験結果は自分から NCEES に連絡しないと Board に送ってくれないので注意してください。NCEES の担当者は非常に親切で、連絡するとすぐに対応してくれました。)

6月 Board から業務経験の確認を求める連絡がありました。Reference の一人である Provost 氏との関係を聞かれたため、彼に letter を書いてもらってこれを Board に送付しました。

7月 Board より PE 登録が完了した旨の連絡！

8月 Wall Certificate が届きました。



PE 登録体験記 3

- 1.氏名 : 上田 清隆
- 2.会員番号 : PE0176
- 3.専門分野 : Mechanical

'08 年秋の P E 試験を受験後、1 年経ってようやくワシントン州への登録が完了しました。

登録にあたり、J S P E の皆様の助言や先輩方の登録体験記が大変役に立ちました。ありがとうございました。

ワシントン州への登録は多くの方が体験記を書かれておりますので、目新しい情報はあまりありませんが、P E 登録を進めるに当たってのトピックを以下に示します。ご参考になれば幸いです。



(1) 学位証明

経験が 8 年間あることより、学位証明に関しては何も提出しませんでした。

(登録申請書に学校名を書いただけです。)

ワシントン州からの問合せも特にありませんでした。

(2) 業務経歴書

他の方の登録体験記にもありますように、業務経歴書の A ~ H の質問に関し、漠然としていて記載に苦労しました。

米国では若手が登録する資格であることを考慮し、あまり手広いことは書かずに、一つの製品の設計経験に絞って記載しました。

8年の経歴にしては一つでは少ないかとも思いましたが、特にコメントは付きませんでした。サインを頂いた指導者にも特に問合せは無かったようです。

(3) 筆記試験合格証明

・ F E 試験合格証明

オレゴン州に証明をメールにて依頼したところ、15ドルかかるとの返事がありました。

オレゴン州のホームページから申請用紙をダウンロードし、依頼事項とクレジットカード番号を記載してメール送付したところ、処理していただきました。

・ P E 試験合格証明

N C E E S に証明をメールにて依頼したところ、無料ですぐに処理していただきました。

JPEC Exam Coordinator の Ashley Bernazzoli という方より証明書の写しが送られてきました。

それには、私が NCEES の P E 試験に合格していること、JPEC では証明書が発行できないことが記載されていました。

(4) 州法テスト

登録申請を送付してしばらくして州法のテストが届きました。

P E に関する法律について、4択問題が25問ありました。(80%以上正解で合格。)

当該の法律はホームページよりダウンロードでき、各問題ごとに該当する法律の番号が記載されているため読めさえすれば解ける問題でした。しかし、法律独特の文章に慣れず、読解にかなりの時間がかかりました。

(5) 登録

州法テストを郵送し、ワシントン州到着後1週間ほどで審査完了の手紙が届き、ほぼ同じ時期に登録されました。また、免許は登録後2週間ほどで手元に届きました。

PE 試験合格体験記 1



1. 氏名 : 野村 幸正

2. 会員番号 : PEN-0034

3. 専門分野 : Mechanical

4. 試験日 : 2009年4月 (受験回数1回)

5. 勉強に用いた参考書・問題集

・ Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam

・ Practical Problems for the Mechanical Engineering PE Exam

・ Mechanical Engineering Sample Questions & Solutions (NCEES)

・ 101 Solved mechanical Engineering Problems

・ EIT レファレンスマニュアル 日英対訳版

・ Six-minute Solutions for Mechanical Pe Exam Hvac And Refrigeration Problems

6. 試験に用いた参考書・問題集

・ Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam (分割再編集版)

・ 自身で作成した参考資料 (公式、単位換算表など)

・ 英和辞書

7. 合格体験記

・ はじめに

私の勤務している会社では、FE を取得している社員が何名があり、米国のエンジニア資格である。FE に興

味を持っていました。その頃、書店で「めざせ！PE/FE」という本を購入し、PE/FE 試験というものがどのようなものかを知りました。元々、海外勤務に強い憧れがあったため、世界的に認知されている PE/FE 資格に魅力を感じ、2003 年 10 月に FE 試験を受験、合格しました。

しかし、その当時 PE 試験を受験するためには、PE 取得者のレファレンスが必要な上、日本での受験が出来なくなるなどの事情により、半ば PE 試験受験は諦めかけていました。

そんな中、JSPE からの情報により 2007 年より日本でも再び試験が開催される上、受験に際し PE のレファレンスが不要ということから、諦めかけていた目標に再びチャレンジする決意をしました。

以下に、私が行った勉強内容など試験に関する情報を記載します。

・ PE 試験の勉強方法

受験勉強期間は、2008 年 10 月の試験後から約 6 ヶ月間という勉強期間でした。

勉強にあたり、「PE 試験 TIPS」を参考に、過去、試験に合格された方々の体験記をさせて頂きました。

まず、レファレンスマニュアルおよび問題集を購入し、問題集を解いては、解法をまとめるという手法で勉強を始めました。しかし、受験までに残された時間、自分が確保出来る勉強時間を考慮すると受験までに全分野を網羅することが難しいと判断し、受験の 4 ヶ月程前に勉強方法を変更しました。

それまでのレファレンスマニュアル中心の勉強方法から、NCEES 発行のサンプル問題集、101 Solved mechanical Engineering Problems を中心とした勉強方法に切替しました。

これらの問題集を解き、各分野毎の出題される範囲、レベルを絞り込み効率良く勉強を進めることが出来ました。

また、専門分野については、Six-minute Solutions for Mechanical Pe Exam も利用し、同様に出题範囲の絞り込みを行いました。

各分野毎に、絞り込んだ内容について、参考問題と解法をまとめ、試験の際に検索出来るよう 1 冊のファイルにまとめました。

苦手な分野については、FE 試験で使用した日本語対訳版の EIT レファレンスマニュアルを使用しました。PE のレファレンスマニュアルと EIT レファレンスマニュアルには内容が一致している部分があり、苦手な分野の基本的な内容を理解するのに、日本語対訳版を使用しました。日本語版のため理解しやすく、苦手な分野を克服するには、良いと思います。

過去の受験体験記にも記載があるように、試験の大きなポイントになったのが単位換算でした。単位換算表は、問題集を解く課程で使用した換算を別紙にまとめ、各分野毎に試験の時に素早く探せるように自分なりの換算表を作成しました。この単位換算表が実際の試験で、大変役に立ちました。

・ PE 試験時の対応

実際の PE 試験受験に際し、最も使用頻度が高かったものは、自分で作成した分野別解法まとめノートと単位換算表でした。

レファレンスマニュアルは、小分けにし、分野ごとに表紙、背表紙を付けて参照しやすくしました。

しかし、実際にはレファレンスマニュアルを参照する頻度は低く、一部苦手分野の問題でのみ使用しました。

試験を受けた感想として、レファレンスマニュアルを頻繁に検索していると、1 問 6 分で解かなければならない PE 試験は乗り切れないと感じました。

問題を見て解法が思い浮かぶ、あるいは解法がどこにあるか、思い出せるというところまで、準備が出来ていないと、時間内に全問題を解くことは難しいと思います。



写真.1 実際に使用した

使用できる計算機については、今後受験される方は十分注意して下さい。私が受験した際に、使用可能な計算機を用意しておらず、計算機を使用できない受験生の方がいらっしゃいました。PE 試験を計算機なしで乗り切るとは大変困難だと思います。事前に使用可能な計算機を確認し、出来るだけ早めに購入されることをお勧めします。

・最後に

今回、初めての PE 試験受験で合格することができました。これも過去に苦勞して合格された先輩方がまとめられた「PE 試験受験 TIPS」などがあったおかげで、多くの貴重な情報が得られ、効率よく勉強することが出来た結果だと思っています。

次のステップとしては、PE 登録が待っています。PE 登録が出来て初めて、本当の PE になることができます。引き続き、グローバルに活躍することが出来る PE をめざし、諦めずにがんばっていきたいと思っています。

FE/PE 試験

2009 年秋の PE/FE 試験は、東京四谷の上智大学で実施された。PE および FE 試験受験者数は近年実施した試験の中でも多い約 90,190 名で、経済状況が低迷している中、一流の資格取得を目指そうとするエンジニアの姿勢が見て取れた。

試験は、J P E C の上部機関である米国 N C E E S から賞賛のメールを頂き、2010 年からは J P E C が試験の実施・管理の重要部分を担えることになるなど、上々の評価を得ることができた。それもこれも 30 名を超える J S P E ボランティアの方々への支援があったことである。そのうち約 10 名の方は遠方からの支援者で、九州、東北からも駆けつけてくれた。ボランティアの方々には、この紙面を借りて御礼申し上げる。

今回の試験の実施・管理上の特徴は、

- (1) 会場の上智大学で初めて実施すること
- (2) 試験室が FE3 教室、PE2 教室と多数であったこと
- (3) 遠方からのプロクター参加もお願いしたこと
- (4) フロアプロクターのサポートに 2 名のフローティングプロクターをつけ、そのグループで約 25 名の試験者を監視する体制にしたこと
- (5) 早期退室・トイレ誘導のプロクターのほとんどをアルバイトにしたこと
- (6) 受付場所をスペース確保の観点から 5ヶ所にしたこと

などである。

会場として上智大学を使用するのが初めてであったため、開場時刻のシフト、使用可能什器の手配、



FE 試験会場



PE 試験会場

試験室・受付場所の増設が必要となった。受付場所を5ヶ所にしたために、混乱が生じてしまった。

フロアプロクターのサポートに2名のフローティングプロクターをつけ、そのグループで約25名の試験者を監視する体制にしたことには理由がある。フロアプロクターにフローティングプロクターの教育をお願いすることと試験室での監視活動を頻繁にするためである。フロアプロクターは受験者の試験責任者という要職であるが、高齢化が進み人材不足のため今回の処置となった。またNCESからは再三プロクターが十分試験中の監視活動を行っていないという指摘があり、3名体制とした。その為にはプロクターの人数確保が不十分であってはならず、遠方からのプロクター参加をお願いする運びとなったわけである。早期退室・トイレ誘導のプロクターのほとんどをアルバイトにした理由もプロクター人数確保の方法であった。

今回、課題もいくつか提示された。

フード付きスウェットの着用

試験室温度の管理

控え室の容量

事前準備アイテムの不足

受付方法の改善

NCESとの事務連絡の改善

である。共通意識を持っていなかったために生じた課題もあるが、今後の試験運営に役立てたいと思う。

ボランティアの方々からは、「参加してよかった」、「こんなに大変だとは・・・」などと意見を頂いている。

『百聞は一見にしかず』である、是非ボランティア参加を！

Ethics

Pemagazen 2008年3月号

報酬を受けること

～社外の製品について規定することは非倫理とされるか～

状況：ラン・バイPEはある会社から以下の勧誘を受けている。「EFG サプライカンパニー（以下EFG）は貴殿に汚水排水システムに明るいエンジニアを対象とした新しいプログラムに参画していただきたいと思っております。つきましては弊社の汚水排水システムに関するセミナーに無料招待します。このシステムの価値を認めていただければEFGが汚水排水の製品を開発中ということを計画書に記載ください。そうすれば弊社の報奨プログラムを使って、バイ様のお客様はEGF汚水パイプを安価で購入できます。毎月バイ様は報奨の証書を受け取れます。この証書の報奨額は月収に対する割合で決まります。弊社とイーストウェストビルリゾート・カントリークラブの割引券がもらえます」

どう考えますか：バイ氏がEFGのセミナーに参加することは倫理上問題ないでしょうか。また、EFGの報奨金プログラムに参加することはどうですか。

ボードの見解：バイ氏が無料の教育セミナーに参加すること自体はNSPEの倫理規定に違反しません。バイ氏はこのようなセミナーで技術等に関する情報を得て自信の技術力の向上につなげ、顧客や公衆のためにより良いサービスを提供することになるでしょう。ボードの見解としては、このセミナーがクルーズ船で行われたりすれば、教育というよりは贈答に該当し、問題ありと考えます。が、この場合は招待セミナーは最小限の価値として行われたと考えます。

2つ目の問題として、バイ氏が EFG の報奨プログラムに参加したことが倫理的と言える証拠はありません。バイ氏がプログラムに参加したのはリベートにあたると思われます。というのは、バイ氏が EFG の特定の製品にお墨付きをあたえるのは NSPE の III-5, a および b で禁止されている行為です。しかも、技術者の顧客に割引券を与えるのは倫理問題に抵触します。さらに、このプログラムは技術者が個人として判断することで得られる信用を損ねる明らかな「逆なで」ともいえます。

EFG のセミナーに参加してこの汚水排水システムが顧客にとって最も良いものと考えれば、システムにお墨付きをあたえてもかまいませんが、報奨プログラムには参加してはなりません。

結論として、招待セミナーへの参加は「倫理的」、報奨プログラムへの参加は「非倫理的」となります。

NSPE 参考資料

II.4.C 技術者は自らの業務で社外の業務関係者と直接・間接的に金銭や高価なものを授受してはならない。

III.5 技術者は利益の相反にあたることにかかわってはならない

III.5.a 技術者は材料・機器のサプライヤーから、無償の設計業務を含め金銭を受けてはならない

III.5.b 技術者は直接業務でかかわりのあるコントラクター等から直接・間接的に金銭を受けてはならない

III.9.e 技術者は常に継続教育プログラムに参加したり、技術書を読んだり、セミナーに参加したりすることで自らの技術者としての能力を高めていかななくてはならない。

PE0022 植村 大輔

会員からの投稿

今回は JSPE の GOD mother の鹿野さんから原稿をいただきました。

「転職は夢実現のステップアップ」

事務局 鹿野憲子

私の職業人生を振りかえってみると、転職のオンパレードでした。

研究生生活に夢をいただいた社会人生活の第一歩は、東京都立農事試験場から始まりました。

試験と研究に熱中する毎日を過ごしましたが、やがて、多くの研究者がそうであるように、海外との“研究格差”が知りたくなり外国行きを計画し、大使館での情報収集を試みるも、渡米も渡欧もそう簡単でないことがわかりました。

< 転職で夢叶いペンシルベニア >

チャンスの糸口は、思いがけないところから見つかりました。学会で出会った先生の勧めで、今度は民間企業の研究所に就職。海外での研修制度があるということが、転職の決め手となったのです。渡米のチャンスを夢見て、機会を待ち続けました。

ある時のことです。来日した某外国企業の会長に会う機会がありました。弾む会話のなかで問われるまま米国行きを希望しましたら、彼が米国での下宿先や銀行の保証人になってくれること、そのうえ、1年間の企業研修も約束してくれたのです。夢見て3年、いつかは叶うものと信じ続けてきた私の夢は、やっと実現の運びとなりました。

当時、渡航には外貨持出金制限があり、1ドル350円の時代ですから手持ちのドルはわずかでした。幸にも研修先で給料がいただけましたので、週36ドルの下宿代を払っても日常生活は十分でした。ペンシルベニア州ウエストグロ - ブは小さな町でしたので、日本人は私一人。「東洋の女の子が田舎に来た」というだけでニュースになりました。地元新聞が

取り上げ掲載してくれたお陰で、レストランでも大いに歓待、スーパー・マーケットでも特別サービスを受けました。

<第2の研修先はクリ - ブランド>

私のプログラムはさらに進化します。ペンシルベニア州を離れ、オハイオ州での新たな研修に入ることになったのです。くしくも米国の独立記念日が、旅立ちの日でした。

その独立記念日の機中でのことです。隣り合わせた白人女性が、突然堰きを切ったように泣き出しました。たった今夫と別れてきた、まだ未練があるので泣きたいというのです。私はどう慰めてよいのかわかりません。

終始、聞き役になって「これから前を見て、がんばろうね！」と、励ましました。私もこれから、クリ - ブランドは新天地です。それから、お互い別れを惜しみつつ、飛行機のタラップを降りました。



クリ - ブランドの空港に着くと、いかにもドクタ - 然とした方が出迎えてくれました。少し神経質そうな初老の紳士で、足の悪い奥様の世話をしていました。彼の家庭に招かれた時、庭の草花すべてに学名が書かれていたのが印象的でした。私の第二の研修先が、

ここ州立の Kingwood Center であり、彼が私の Big ボスです。緑深いこの地が、新たな生活拠点となりました。

<地元市民や専門家と交流、ヨーロッパ旅行>

Kingwood Center は電力王 Mr. King の持ち物でしたが子どもがいなかったため、すべての財産と3万坪の土地を州に寄贈。さらに、彼らに尽くした2人のメ - ドの生涯生活保障を遺言に書き残している高德の人でした。私の生活は、2人のメ - ドに気に入られることから始まりました。

センタ - は市民交流の場として一般公開され、野外コンサ - トなど様々なイベントが開催されておりました。私も研修の名目



で、セミナーに参加したり、インフォメーションに立ったりして、多くの市民や専門家と交流することができました。

後に、オレゴン州の会長・Sue Laszloがこの地を訪れたと知り、深い縁を感じています。

オハイオ州の1年の研修もあっという間に過ぎて、プログラムを終えました。ヨロッパを回って帰国するか、ハワイにするかの選択で、ハワイはいつでも行けると思い、ヨロッパ回りを選択。N.Yのケネディ空港から飛び立ち、三週間かけて、イギリス、オランダ、フランス、イタリアを巡る一人旅をしました。多くの人々に出会えたこの時の経験は、生涯の財産となりました。いつでも行けるはずだったハワイにはまだ、行けずじまいです。

< 第二の人生へと再出発 >

帰国後、同じ職場に復帰し、新しい生活が始まりました。

そして、結婚し、出産後、仕事を続けようとしたのですが、今のような恵まれた労働環境はなく、法整備も不完全です。産前産後に1カ月余りの産休を取った後、やむなく退職しました。

それから数年がたち、子どもたちも少しずつ手がからなくなってきたころ、仕事への思いが募り新たな社会への再出発を迎えます。第二の人生の舞台は、急成長するベンチャー企業の海外部です。毎日45カ国からテレックスが入り、大わらわの日々でした。当時はまだ、パーソナルコンピュータのはしりのころで、多くの若者が集まってきました。その中には、後にヤフーの社長となった井上氏がいました。さらにその後、100年以上の歴史がある企業に転職。元職を生かしてバイオテクノロジーの担当となり、多くの企業の研究所長や筑波の国立研究所長に、最新情報を提供しました。

< PE・FE試験と出会う >

5年以上が過ぎた時、中立の立場でものがいえるようになりたいと思い、社団法人日本工業技術振興協会に入社いたしました。ここでPE・FE試験に出会ったのです。

1994年は、この米国の試験を日本に導入しようと、試行錯誤の毎日が続きました。いよいよ日本での試験を始めようとした時に、全米の大会でグアムが反対動議を提出。

実施を阻む行動を起こしました。日本の参入が彼らの職場を奪う、と思ったのかも知れません。結局、日本での実施が先送りとなってしまいました。

すでに、ポスタも刷り上がり会場も設定済みでしたので、大いに落胆をしておりましたら、日本に賛成票を入れてくれたオレゴン州の代表が、救済の手を差し伸べてくれました。このように紆余曲折を経てスタートをしたのが、オレゴン州主催の第1回FE試験(1994年)でした。現在はNCEESによるFE・PE試験ですから、はや15年の歳月が過ぎようとしています。

このように私の人生も仕事もすべてハプニングの連続でしたが、情熱と気力を失わなければ、いつか希望に近づくものです。

どうぞ皆様、このような混沌とした現代だからこそ、夢と希望を持って進んでいただきたい。前向きな転職こそが、未来をひらく道です。決して、後ろ向きにはならないでください。人生という舞台を一幕一場面で終わらせないためにも、多くのチャンスに挑戦していただきたいと思います。(ただし、転職先を決めてから辞めることが肝要)

多くの職場での出会いや経験、今も続く人々とのネットワークに感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

女性PE大いに語る。

PE0096望月 みずほ様 mimochizuki@ykh.chiyoda.co.jp

PE0108 鈴木 律様 メールID: ritsu@rr.iij4u.or.jp

戸田様 メールID: ashoda@ykh.chiyoda.co.jp

海外からの連絡

工学的観点から見たスリランカの土

汐崎 亮介, PE(Civil)

今回は土木工学の観点から見たスリランカの土についてご紹介させていただきます。スリランカと言えば、真っ先に思いつくのが紅茶と宝石ではないでしょうか？スリランカは世界的な紅茶と宝石の産地です。農業的な観点から見れば、スリランカの土は気候と傾斜地形とも相まって、スリランカを世界的な紅茶の産地と成らしめた、良質土ということになります。そして、宝石の採掘という観点から見れば、スリランカではダイヤモンドを除くほぼ全ての種類の宝石が発掘されると言われているように、スリランカの土はたくさんの宝石を蓄えている良質土と言えるでしょう。それでは、工学的観点から見たスリランカの土とはどのようなものか、ご紹介いたします。

まず初めに、CIVIL 以外を専門とされる JSPE 会員の為に、土の工学的特性とはどういったものか簡単にご説明いたします。工学的に見て、土はその上に建設される構造物を支持する為に十分な強度や、斜面の滑り破壊に対する抵抗力を備えている必要があります。構造物の建設等により、外部から荷重を受けた土は内部にせん断応力が生じ、ある一定の限度を超えると滑り破壊を起こして崩壊します。土のせん断抵抗力、つまり強度は土粒子間に働く粘着力 c 及び内部摩擦角 ϕ から決定され、粘性土では粘着力 c が支配的、砂質土では内部摩擦角 ϕ が支配的となります。次に、土の強度とは関係なく、土は荷重を受けると土の中に含まれる水分を排水することにより圧縮するという性質を持っています。これがいわゆる圧密による地盤沈下です。この圧密による地盤沈下の量とそれが収束するまでの時間は、土の持つ圧縮指数や透水係数によって決定されます。ちなみに、土木工学において圧密による地盤沈下が問題となるのは粘性土であり、砂質土は地盤沈下の量も時間も非常に少ない事から問題視されません。

以上を踏まえたうえで、スリランカにはどのような土が広く堆積しているか土木工学的な視点から解説いたしましょう。スリランカには、川によって流されて堆積した沖積土が広く分布しています。その中でも、熱帯性気候によって育まれた大量の湿地性植物が枯死・堆積して出来た泥炭が多く堆積しているのが特徴的です。土木工学では泥炭は粘性土に分類されますが、岩が風化して出来た粘性土よりも大きな圧縮性と低いせん断抵抗力を有しています。この泥炭がスリランカでの建設工事を難しくしています。つまり、構造物の建設にあたっては、杭基礎を支持層まで打ち込むか、地盤改良により強度増加と地盤沈下対策を施す必要があります。泥炭以外には、岩とそれが風化して出来た粘性土がほとんどです。スリランカの白く輝くビーチには砂が堆積していますが、内陸部では砂層はほとんどありません。建設材料としてよく使用されるコンクリートには砂が必要ですが、塩分を多く含んだ砂浜の砂はアルカリ骨材反応を引き起こし、コンクリートを劣化させるので、そのままでは建設材料としては不適切です。したがって、山を丸ごと切り崩して砂を大量に採取する等ということは不可能で、建設資材として使えるのはスリランカの川底からわずかに採取される砂のみとなります。つまり、工学的に見たスリランカの土は不良土と言えるでしょう。



こうしたスリランカ特有の条件は、建設工事を困難なものにしていますが、その中にこそ我々エンジニアの活躍の場があり、腕の見せ所となります。さて、JSPE 会員のみなさんはスリランカの土は不良土だと思いますか？それとも良質土だと思いますか？

以上

理事会ニュース

企画部会

イヤーエンドパーティー報告

2009年12月05日(日曜)、12:30~16:00

東京中央区兜町のレストラン コルヴィエラで2009年度JSPE関東イヤーエンドパーティーを開催しました。JSPE会員15名、同伴者8名(内お子さま2人)そしてJPECから3名の参加で計26名の方々にお集まりいただきました。

簡単な乾杯の挨拶から始まり、フランス・イタリア料理ををいただきながら

「チーム・マネジメントに活かす日本的コミュニケーション」とのテーマで望月PEの講演を拝聴しました。我々の行動を決めるのは「脳」であるとの説明から始まった講演は、心理学に基づいたチーム・マネジメントに関するものでした。価値観の異なる国際チームの中で一人孤立してしまったエンジニアとチームとしての共通認識をいかに築き上げたかをケーススタディーとしながらお話は進みました。行動(心理)分析を行った上で、外国人の強い口調は個人攻撃とは異なるものであることをじっくり説明し理解を促したことや、朝礼や社外イベントのような日本のアプローチで多国籍のチームメンバーにチーム意識を芽生えさせた経験などとても興味深い内容でした。

特に「間違っただ行動は存在しない ただ“ゆがんだ認識”が存在している」とのことには感銘を受けました。

日本企業における女性エンジニアの立場などにも話が及び、会員外の女性エンジニアからも意見をもらうと活発な質疑応答が行われていました。

後半は内田PEの正体がアルゼンチン・タンゴバンドのバンマス(リーダー)であることをご披露する場となりました。バンドネオ、バイオリン、ピアノからなるバンドは本格的な演奏で参加者をよい意味で驚かせていました。タンゴの哀愁を帯びたメロディーや内田PEの奏でるリズムカルなピアノに皆引き込まれていました。数曲ボーカルが加わった曲もあり、明るい昼下がりの兜町が夜更けのブエノスアイレスに感じられた演奏を大いに楽しみました。

最後に土屋会長から大久保監事の近況報告とこれからのJSPE活動でダイバーシティー(多様性)が重要になっていく旨のお話をいただき閉会となりました。





みなさまのご協力で本年度も愉しくイヤーエンドパーティーを開催することが出来ました。
有り難う御座います。

企画部会：金城隆

JSPE 関西イヤーエンドパーティ 開催報告

JSPE 関西恒例のイヤーエンドパーティが阪神大震災後 15 年目のルミナリエで賑わう神戸三宮において 12 月 5 日(土)夜開催されました。昼間行われた鬼金関西セミナーから流れ参加の 10 名と、夜の部から参加の 6 名 計 16 名が地元で噂の(?)レストラン The Old England に集い、ギネスビールとフィッシュアンドチップスを肴に、各人の今年の耳より経験談、PE 関連情報を交換しました。

東京の総会や行事になかなか参加できない関西の会員にとっては、イヤーエンドパーティが事実上の年次総会でもあるため、幹事が紙芝居スライドにて今年の



JSPE イベントを報告しました。

余興として参加者各人が *My Best Photo of 2009* をこれまた紙芝居形式で発表。参加者の拍手投票によりささやかな景品が授与されました。

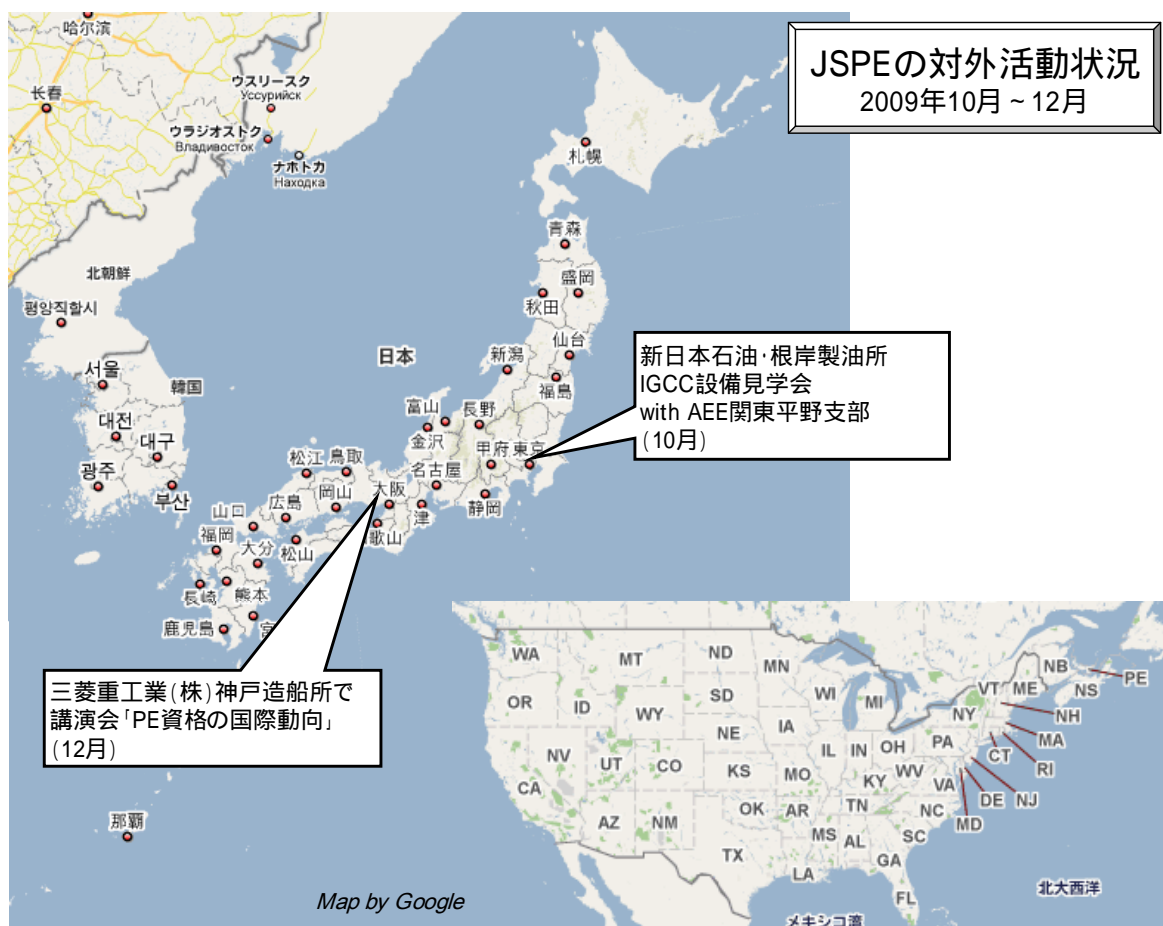
来年は性別年齢を問わずより広く会員を勧誘、会員サービスを提供することを約してそれぞれ師走の繁華街に散っていきました。

理事 & 宴会幹事 川村武也



渉外部会

10月-12月のJSPE 対外活動状況は次のとおりです。



渉外部会では、PE 制度を日本に定着させ、また PE/FE 会員の交流の場を全国に広げるため、ご要望があれば、随時どこへでもお伺いします。ご要望などありましたら external.2007@jspe.org まで。

10月9日、JSPEと米軍AEEによる新日本石油精製(株)根岸製油所のIGCCプラント見学および昼食会が開催されました。

台風18号の一過の晴天の下での見学会となり、IGCCによる発電能力と、エネルギーの効率化について、参加者一同、深く興味を持って、見学しました。

JSPE会員19名、米軍AEE側8名、合計27名の見学者全員が、新日本石油精製側の暖かいもてなしの中で、IGCC現場への訪問、事前説明および事後の質疑応答などの見学会を終えた後、新日本石油精製に用意していただいたバスで中華街へ移動して昼食会が行われました。なお、昼食会には、新日本石油精製側からも、副所長他1名の方が加わって頂きました。

会員部会



12月現在の会員数

PE 141名 準PE 24名 FE 161名 AF 30名 ST 1名 合計 357名

PE・FE合格祝賀会のご案内

昨年10月に実施されたPE・FE試験の合格祝賀会を3月6日(土)に開催致します。

受験体験談や州登録に関する説明も予定していますので、合格者はもちろん、

今後PEを目指される方も、是非ご参加下さい。

またPEの方も参加頂き、後進の指導にご協力をお願いします。

開催日時：3月6日(土曜日)午後1時～4時

会費：3000円(合格者は無料)

場所： 学士会館本館(神田) 203号室

(三田線・新宿線・半蔵門線神保町A9徒歩30秒、東西線竹橋徒歩5分)

学士会館URL:<http://www.gakushikai.or.jp/facilities/index.html>

参加して頂ける方は、2月26日(金)までに以下メールアドレス宛にご連絡下さい。

membership.2007@jspe.org

以上

教育部会 CPD セミナー

教育部会 CPD セミナーについて

教育部会では、2009年4月～12月に29回のセミナーを開催し、延べ301名(PE159名、PEN43名、FE47名、他52名)の参加を得て、PEに対して延べ559.5hのPDHを発行しました。また、米国PMI認定のPMPやPMP受験を目指す方には、延べ614hのPDUを発行しました。PDHやPDU獲得でお困りの方は、是非JSPEが提供しますCPDセミナーをご活用下さい。

1. 第145回CPDセミナー(関西地区)開催報告

教育部会・関西分会は、大阪大学大学院の杉田米行准教授による「アメリカはどこへ行く? - 1930年代～鳩山新政権までの日米関係―」を10月10日(土)午前9時30分～12時、神戸元町の兵庫県民会館会議にて開催いたしました。

10名(PE5名、PEN1名、FE4名)が参加し、

- A. 日本の民主党勝利の意味
- B. アジア太平洋戦争がアメリカに与えた影響
- C. 冷戦中と冷戦後で何が変わったか
- D. 9.11が日中米関係に与えた影響

について聴講した後に、活発な質疑応答が行われました。違った切り口からの講義であり、非常に興味深い内容で、頭がリフレッシュできました。

2. 第149回CPDセミナー(東京地区)開催報告

教育部会は、JFEエンジニアリング株式会社の赤松秀実氏(PE)による「技術者として必要な契約知識」を11月7日(土)午後1時～5時、東京水道橋の貸会議室内海にて開催いたしました。

御講演では、契約書作成時に留意すべき事項の基本的な考え方、秘密保持契約・共同研究開発契約、及び共同出願契約・共有契約における注意事項を解説いただき、ジョイントベンチャーで開発した特許等を実施する際の留意点について例に挙げて説明いただきました。参加者からは、業界のガイドラインと契約の優先順位、共同研究成果の規定方法など、実際の業務に関する質問も多く出ました。また、「契約」を勉強するための参考書についての質問もあり、参加者の熱心さが印象的でした。

なお、2010年2月12日(金)には成田国際空港の施設見学会を予定しています。普段立ち入ることのできない制限区域からの見学ですので、ぜひご参加ください。

3. 欧米流交渉術コース(全5回コース)

東京地区では、欧米流交渉術コースを東京赤坂のJSPE事務所にて月1回開催しています。10月～12月は、以下の2回のセミナーを実施しました。

第1回演習 2009年10月11日(日) 10:00～13:00

建設請負契約交渉

第2回演習 2009年11月14日(土) 10:00～13:00

自動車購入・売却交渉

2010年1月～3月は以下の演習の開催を予定しております。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください(kanto.cpd@jspe.org 青木)。

第3回演習 2010年1月9日(日) 10:00～13:00

就職給与交渉

第4回演習 2010年2月13日(土) 10:00～13:00

不動産開発プロジェクト交渉

第5回演習 2010年3月13日(土) 10:00～13:00

不動産開発プロジェクト交渉

4. 鬼金 CPD2009・関西コース(全10回コース)

関西では、プロジェクトマネジメント研修コースを神戸元町の兵庫県民会館にて月1回開催しています。10月～12月は、毎回10名程度の参加で、以下のセミナーを実施しました。

第3講 2009年10月10日(土) 13:00～17:00

Project Scope Management & MS Project の使い方

第4講 2009年11月7日(土) 13:00～17:00

Project Time Management & MS Project の使い方

第5講 2009年12月5日(土) 13:00～17:00

Project Cost Management

なお、2010年は、以下のセミナーを予定しておりますので、ご興味ある方は、お気軽にお問合せ下さい(rep@jspe.org、阪井)。

第6講 2010年1月9日(土) 13:00～17:00

Project Quality Management & Project Integration Management()

第7講 2010年2月10日(土) 13:00～17:00

Project Human Resource Management
& Project Communications Management

第8講 2010年3月6日(土) 13:00～17:00

Project Risk Management

第9講 2010年4月3日(土) 13:00~17:00

Project procurement Management

第10講 2010年5月15日(土) 13:00~17:00

Project Integration Resource Management()
& Project Management Professional

5. 鬼金 CPD2009・関東コース(全10回コース)

東京においても、プロジェクトマネジメント研修コースを東京水道橋の貸会議室内海にて月1回開催しています。10月~12月は、毎回10名程度の参加で、以下のセミナーを実施しました。

第2講 2009年10月17日(土) 13:00~17:00

Project Management Processes for a Project
& Work Breakdown Structure(WBS)

第3講 2009年11月21日(土) 13:00~17:00

Project Scope Management & MS Project の使い方

第4講 2009年12月19日(土) 13:00~17:00

Project Time Management & MS Project の使い方

なお、2010年は、以下のセミナーを予定しておりますので、ご興味ある方は、お気軽にお問合せ下さい(rep@jspe.org、阪井)。

第5講 2010年1月16日(土) 13:00~17:00

Project Cost Management

第6講 2010年2月20日(土) 13:00~17:00

Project Human Resource Management
& Project Communications Management

第7講 2010年3月20日(土) 13:00~17:00

Project Quality Management & Project Integration Management()

第8講 2010年4月17日(土) 13:00~17:00

Project Risk Management

第9講 2010年5月22日(土) 13:00~17:00

Project procurement Management

第10講 2010年6月19日(土) 13:00~17:00

Project Integration Resource Management()
& Project Management Professional

(教育部会部会長 青木豊加 education.2007@jspe.org)

ホームページ便り

ホームページ便り

広報部会

ホームページに JSPE Magazine のバックナンバーを収録しました。本文の閲覧は会員の特典になっていますが、目次は非会員も閲覧できます。JSPE の会員になろうか、どうしようか、と迷っている人が回りにおられたら、是非、このことを知らせてあげてください。入会して読みたくなる内容がいっぱいです。

また、長らく作成中のままになっていた役員紹介のページをやっと公開できました。どんな役員が JSPE を運営しているのか、一度ご覧ください。

広報部会に強力な助っ人が加わりました。AF 会員の飯塚 誠さんです。今後、主に英語ページの刷新を推進してもらう予定です。PE 会員だけでなく、FE 会員の方も AF 会員の方も部会員として広報部会あるいは他の部会の活動に参加していただけます。有志の方はいつでもお申出ください。

少しずつですが着実に JSPE のホームページの閲覧数が増えています。本業の傍らのボランティア活動なので少しずつですが、これからもホームページの内容を新鮮に保ち、充実させていきたいと思っておりますので、時々のでいてみてください。

広報部会長 柏井 善夫

Coming event

3月6日 PE/FE 合格祝賀会

4月18日 PE/FE 試験

6月12日 JSPE 総会

新入会員紹介

敬称略、順不同

氏名： 前田 功 PEN-0029

資格： 技術士一次試験（電気電子部門）、電気通信主任技術者、他

専門分野：電子工学【半導体】

入会動機：昨年秋の PE 試験にて合格し、合格祝賀会に参加したことをきっかけに入会しました。他業種のような方々と交流できれば幸いです。

自己紹介：東京都出身で職場は神奈川県、某半導体メーカーに勤めて気がつけば二十年近くが経っていました。この春に社内異動があり、以前よりも増して英語が必要な職場となり、日々苦しんでおります。今現在は製造工場の方へ長期出張しておりますが、戻り次第、首都圏でのセミナーなどには参加させて頂きたいと思っております。その際にはよろしくお願い致します。

J S P E に望むこと：

まずは PE 登録へ向けての情報交換 / サポート頂ければ、と勝手ながら考えております。

氏名： 柏木 貴志 AF-0049

資格： 特にありません

専門分野：営業

入会動機：現在の職場も 6 年目に入り、新しく何かを始めるにはよい時期と思い。

自己紹介：横浜市内在住の 32 歳です。私自身は理系のバックグラウンドを全く持ち合わせていないのですが、世界各国の製品安全や電波法規への適合確認を行う会社に勤めており、モノづくりの世界に少し携わらせてもらっています。趣味は山登りとサーキット走行です。登山道入り口付近は舗装路も少なく、私の低い車高のクルマではアクセスが難しいこともあるため、山登り計画の際は、登山ルートの確認の前に、現地駐車場付近の路面状況調査から入っています。サーキット走行では、最近千葉の袖ヶ浦に新しいサーキットが完成したようで、近々出陣予定です。

J S P E に望むこと：

JSPE や他の協会・団体を交えての、異業種交流会など。

氏名： 安藤 雄介 PEN-0035

資格： 電気・建築・土木 1 級施工管理技士、公害防止管理者水質 1 種、一般計量士合格

専門分野：水道

入会動機：調査から設計そして積算、施工監理そして運営維持管理まで一連のプロジェクトマネジメントについて情報交換したいため。異分野の技術者と交流を深めるため。

自己紹介：現在、水道分野における開発コンサルタントに勤務しており、発展途上国の水道に関する諸々の仕事をしています。具体的には、

- ・ ザンビアの地方部における手押しポンプ井戸建設（200 箇所）の施工監理
- ・ タンザニア水省で地方給水政策アドバイザー専門家
- ・ グアテマラで地方給水計画の積算調査
- ・ スーダンにて浄水場運営維持管理研修指導の専門家
- ・ セネガルで地方給水の基本設計調査
- ・ マダガスカルにて村落部給水施設の料金徴収法などの操業指導専門家
- ・ カンボジアアンコールワット地区における地下水位計設置・解析とそれらの技術移転業務、
- ・ フィリピンにて鉄・マンガン除去の浄水場建設の基本設計調査/積算から施工監理・試運転業務

等を行って来ました（一部実施中もあります）。特に今はアフリカ出張が多く、年のせいもあって時差ぼけ解消に悩んでいます（若い時は 2、3 日で解消できましたが、今では 10 日ぐらいかかります。また、時差ぼけが解消せずに出張も多々あります）。年間通じて半年間ぐらいしか日本にいてませんが、JSPE の会合には可能な限り参加したいので宜しくお願いいたします。

J S P E に望むこと：他分野や他業界の人々と交流を図ることを望みます。



氏名： 宮田 繁 FE-0350

資格： EIT（機械）

専門分野：機械工学

入会動機：PE 取得のため、情報収集をしたいと思います。

自己紹介： 愛知在住の30才です。フォークリフトを製造するメーカーにて開発業務をしています。趣味はサーフィンで春から秋にかけてほぼ毎週のように近くの（といっても2時間ほどかかりますが・・・）海に行っています。颯爽と波に乗っていると良いところですが、波との格闘の日々です。最近では自転車にも興味があり、秋から春は自転車を趣味にしようかなと思っています。2009年の秋にはオランダ・ベルギーに自転車旅行に行ってきました。向こうは日本と違い自転車専用道路がかなり整備されています。しかもその道のまわりには牧場や白鳥がいる湖が多く、とても気持ち良く走ることが出来ました。もし興味を持たれて「自分も行ってみたい!」という方がいらしたら連絡下さい、私の知る限りではありますがアドバイス出来ると思います。



J S P E に望むこと：

会社に勤めていると技術的な話をするのは社内ばかりになってしまい、会社のルールや業界の常識以外の考え方や接する機会はなかなかありません。

様々な業界の方と交流出来る場が持てれば楽しいかなと考えています。

氏名： 九鬼 弘平 FE-0352

資格： 技術士機械部門一次試験

専門分野： 機械工学・流体工学

入会動機： 2009年6月にFE試験に合格し、PE試験や現在活躍されているPEの方々のお話を伺いたいと思い、入会致しました。

自己紹介： 大阪出身であり、現在も大阪に在住です。

2009年3月に大学を卒業し、大学院修士課程1年生です。

研究テーマは薄膜で覆われた球体の変形の解析を行っています。

分からぬことばかりですが、よろしくをお願いします。

J S P E に望むこと： 広報や交流、セミナー等を地方でも催されることを望みます。

氏名： 山田 智之 PEN-0036

資格： 公害防止管理者（水質）

専門分野： 上下水道計画・設計・水質管理、雨水流出解析

入会動機： PE登録に関する情報入手及び登録後のCPDセミナー参加のため

自己紹介： 静岡県出身の29歳です。現在は在日米軍基地内の上下水道の水質管理に携わっています。

J S P E に望むこと： PE登録に関するサポート。

氏名： 岡本 尽 AF-0048



資格： 土木関連の国家資格

専門分野：土木

入会動機：土木業界以外の海外PJに関わる方との交流・意見交換

自己紹介：東京生まれ、東京育ち。(幼少期に親の転勤の都合で海外駐在経験2年。)現在東京在住37歳。大学を卒業後ゼネコンに勤務し、2004年から国際支店勤務。アジア・アフリカと橋梁PJの現場を経験中、2007年に家内を亡くし、幼子二人を連れてやむなく帰国し、現在は支店勤務。バブルを絶頂として、毎年埋没してゆく日本のゼネコン、今後どう国際社会で生き残ってゆけるかを日々考えながら、今回のJSPEへの入会となりました。

JSPEに望むこと：豊富な海外事業情報に接することで、国際社会に対して日本人としてどう対応してゆくかを考えてゆきたい。

氏名： 新原 盛弘 FE-0351

資格： 第一種放射線主任者、ソフトウェア開発技術者、
甲種高圧ガス保安責任者 等

専門分野：化学工学【プロセスエンジニアリング】

入会動機：FE試験の合格祝賀会に参加したことを期に入会しました。JSPEで情報をいただき、PE資格取得を目指したいと思います。そしてなにより同業種、異業種問わず、さまざまな分野のエンジニアの方々と交流を持ちたいと考えています。

自己紹介：東海村の研究所にて高レベル放射性廃棄物処理の研究を経験した後、現在は千葉にて石油化学分野のエンジニアをしている28歳です。趣味は民族音楽の演奏で、横須賀を中心にバンド活動をしています。

もともと資格マニアでしたが、取得した日本の資格の多くが政治情勢や人気によって合格基準を変えてしまい、しばらくやる気をなくしていました。そこでPEFEの歴史と高い倫理感に出会い、改めて自己研鑽に励んでいるところです。

JSPEに望むこと：

時代が変わっても変わらない価値観や倫理観を大切にするとともに、先輩方の話を気軽に伺いできる今のアットホームな雰囲気を維持してほしいと思います。

氏名： 杉田米行(すぎた よねゆき) AF-0051



資格： なし

専門分野：アメリカの政治外交、日本医療保険史

入会動機：理系の方の発想方法に魅せられました。

自己紹介：アメリカの政治外交と日米関係を教えております。アインシュタインの理論や宇宙論に魅せられて、そのような自由な発想をする理系的思考法を学び、文系の研究に役立てたいと思

ます。

J S P E に望むこと：普段お会いできないような方々と交流でき、様々な講演を聞ける機会がたくさんあり、わくわくする気持ちです。

氏名： 板橋 英亮 (イバシ ヒデアキ) FE-0353

資格： 技術士 1 次試験(機械部門)

専門分野： 機械工学

入会動機： 様々な業種の方々と交流を深めたいと思い入会しました。また、PE 取得に向け多くの情報を得たいと思っています。

自己紹介： 神奈川県在住の 25 歳です。原子力発電プラントの配管設計業務に携わっております。また、設計業務に関しては勉強中の毎日ですが、早く一人前になれるよう、日々業務に取り組んでおります。



J S P E に望むこと：

様々な業界の技術動向について、情報を共有できる場を設けて頂きたいと思っています。

氏名： 飯塚 誠 AF-0050

資格： 特にありません

専門分野： 情報システム 情報システム学修士(専門職)

入会動機： 業種を超えたエンジニアとの交流から、刺激を受たり、色々な知見を吸収したいと思ったため。私の知識を NPO で生かして、社会貢献をしたいと思ったため。

自己紹介： みなさん、はじめまして。千葉県生まれで、千葉 奈良 北海道で育った 35 歳男です。欧米系企業の社内システムエンジニアとして、キャリアを積んでいます。趣味はスキューバダイビングと最近はじめた合気道で、合気道は有段者になることを目指しています。

J S P E に望むこと： エンジニアリング、ビジネススキルを共有、向上できる勉強会を開催する(ES の充実)。エンジニアが社会貢献できるような NPO 活動を行う。

編集後記

今年も余すところ数日になりました。振り返るとアツと言うまでであったが、今年は NSPE の MR.Grossman 会長を JSPE 総会にご招待出来たことは、JSPE の認識を高めるために大いに役立った。NSPE もグローバル化に向かって今後門戸を開くことを希望する。

本年は 13 名の方が PE の州登録をされた。州登録に関しては本人の努力もあるが、JSPE magazine の情報や電子メールでの情報交換などが大いに役立っている。

州登録は日本人に取っては非常に少ない隙間の門戸であるが、今後もその門戸を通過できるよう JSPE 会員が協力し合うことが必要である。

JSPE magazine に関するコメント、感想は edit.2007@jspe.org をお願いします。

編集委員

編集責任者：神野

Ethics 編集委員：田崎

会員紹介編集委員：西川

海外からの連絡：日野

合格体験記：丹下

新入会員：平山

州ボード情報：川村

オレゴン試験資格認定委員会情報：鈴木